



住宅の耐久性、耐久性向上に関する研究

生活環境科学系・住環境学領域

藤平 眞紀子 教授

FUJIHIRA Makiko

博士(学術)(奈良女子大学)

■研究キーワード 住居管理 / 生活環境 / 住宅の耐久性 / 木材の耐久性 / 住宅材料

■主な所属学会 日本家政学会 / 日本建築学会 / 日本木材学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.739c4282dd123d7c520e17560c007669.html>



研究者総覧

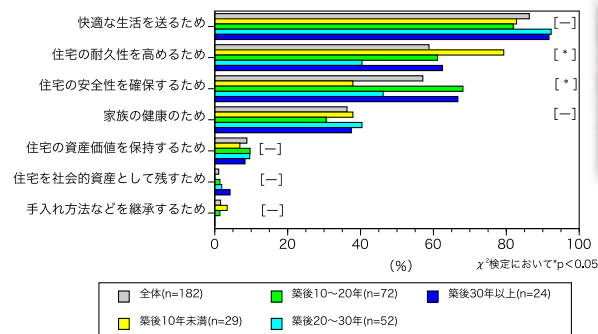
研究概要

生活の場である住宅や建築物の耐久性および耐久性向上について、材料および管理の面から研究を行っています。

わが国では、古くから生活用具や住宅・建築物の材料として、木材が使われてきました。木材をはじめとする多様な住宅・建築材料の特性を活かして、使用環境に応じた使い方や維持管理のあり方を実測や実験により検討しています。

住居管理について、種々アンケート調査やヒアリング調査、文献調査を行っています。住まいの管理の変遷について、婦人雑誌を主対象として検討しています。また、伝統的な木造住宅で実践されてきた管理方法を明らかにし、現代そして今後も継続的に実践できる方法について考察しています。さらに、空き家の管理について、所有者だけでなく地域住民やシルバー人材センターなど外部と連携した管理のあり方を検討しています。

さらに、木材・木質居住環境について、物性的な性能評価とともにヒトの感性評価を通じて、その魅力の解析に取り組んでいます。



住宅の維持管理を行う理由
(居住者へのアンケート調査より)



吉野材のフローリング材としての使用の可能

アピールポイント

地球規模での環境問題やエネルギー問題などから、住宅など建築物の耐久性を上げていくことは、あらためて重要なことだといえます。

住まいは、人が生活する場、人の生活を入れる場、人の生活を守る場であり、人、生活、住宅(建物)が相互に作用し合う場です。この相互作用を人、生活の立場から捉え、生活者と住まいの管理、住宅の耐久性向上を検討しています。

・木造住宅や建築物における構造部材の周囲環境と部材の劣化

木造建築物の構造部材周囲の温湿度環境などを測定し、結露発生の可能性や、木材腐朽菌やシロアリなどの生育環境と照らし合わせて生物劣化の可能性について検討しています。床下や壁内、小屋裏などの環境整備に活用していきます。

・住まいの管理

住宅の材料、工法、様式、住まい方、住まいの課題や社会や経済の変化とともに、住まいの管理も変化しています。居住者の高齢化に伴う住居管理のあり方、伝統的木造住宅における維持管理の変遷と今後の継承、木造住宅の維持保全計画、集合住宅における共同管理・維持保全、空き家の管理、社会財としての住宅の管理、住まいの管理の変遷などから、これからの住まいの管理のあり方を検討し、実践につないでいきます。

・木材の印象評価と内装材としての適性評価

ヒトの感覚・印象評価と木材の吸放湿性などの物性との関連を検討し、木材の内装材としての適性を評価しています。森林資源の循環利用を考慮して木材を適切に使用し、快適で持続可能な生活環境の整備および維持に応用していきます。